

インド中銀、金融政策の変更見送り

ポイント① 金融市場見込みに反する利上げ見送り

10月5日、インドの中央銀行であるインド準備銀行（RBI）は、金融政策委員会後に政策金利であるレポレート（RBI）を6.50%に据え置きと発表しました。6月、8月の政策委員会で2回連続の利上げ後、今回は利上げ見送りとなりました。

金融市場では事前に利上げ実施を見込む意見もあったため、利上げ見送り発表後は、一時インド・ルピーは米ドルに対してやや下落しました。一方、株式市場では金融政策の先行きに対する不透明感が強まり、5日にはインド株は下落しました。

ポイント② 米利上げのもと、インド・ルピー安が進行

インドは堅調な景気拡大を続けており、天候要因などもあって、図3が示すように昨年後半から今年初めにかけて消費者物価指数の上昇率が高まりました。さらに、図2が示すように、米国でFRB（米連邦準備制度理事会）が利上げを速めるとの見方が強まった今年初めから、インド・ルピーは米ドルに対して大きく下落しています。インド・ルピーの下落が続くと、輸入物価を押し上げる可能性があります。

インフレ率の上昇や通貨安を受けて、図1が示すように、3か月物銀行間金利などのインドの市場金利は、今年初めから上昇していました。6、8月の利上げは、インフレや通貨下落の抑制を狙ったものと見られます。

ポイント③ インフレ率は安定的

ただし、足元ではインフレ率は落ち着いています。図3が示すようにインドの消費者物価指数の前年同月比上昇率は、農産物価格の低下などを背景に8月には3.69%に留まり、4%前後というインド準備銀行のインフレ率目標を下回りました。こうしたことから、インド準備銀行は利上げを急ぐ必要はないと見て、今回利上げを見送った模様です。

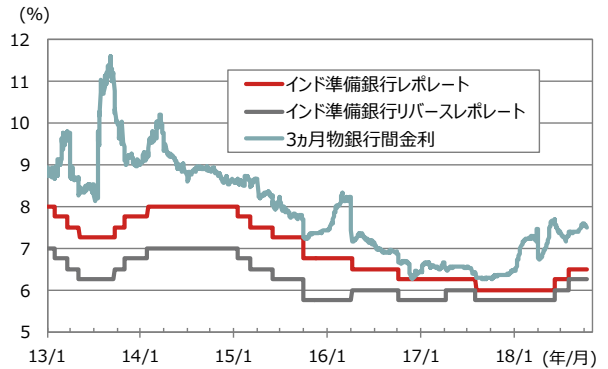
ただし、金融政策の姿勢を2017年2月から続いた「中立」から「引き締め」に変更しており、今後の通貨やインフレ率の動向次第では、次回12月5日の金融政策決定の場で追加利上げが行なわれる可能性もあります。

重要
イベント

10月12日 インド消費者物価指数(9月)、鉱工業生産指数(8月)
10月15日 インド貿易収支(9月)

図1：インドの政策金利と市場金利

期間：2013年1月1日～2018年10月8日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：インド・ルピーの動向

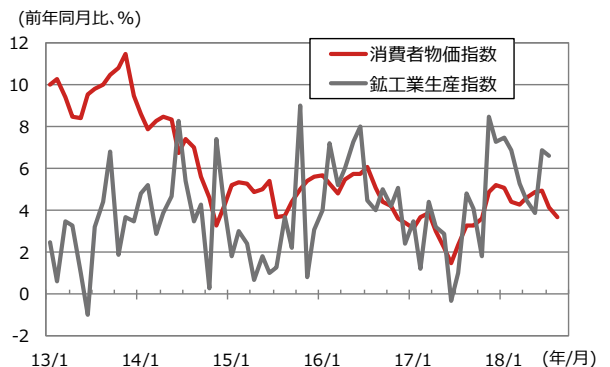
期間：2013年1月1日～2018年10月8日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：インドの消費者物価指数と鉱工業生産指数

期間：2013年1月～2018年8月、月次



(注) 鉱工業生産指数は2018年7月まで。

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。